

ジョナサン・スウィフト

### 3 新・秀作バラッド

#### —強姦<sup>レイプ</sup>罪で絞首刑になるべき正真正銘のイングランド司祭—

##### I.

われらを大事にしてくれるイングランド国教会信者の皆さん  
すべてにおいて親切な皆さんが  
(ああ ありがたや) 正真正銘のイングランドの首席司祭を  
今年 我々の教会のためにと送ってくださった  
縮緬<sup>クレープ</sup>に身を包んだ中では最高の司祭様  
始末の悪いことに 犯した罪は強姦<sup>レイプ</sup>だった

5

##### II.

司祭はダブリンへの旅の途中 チェスターに立ち寄り  
そこで人妻を気に入って  
部屋へと押し入り 女を抱くつもりであった  
だが女は命よりも貞節が大事と  
暴れまくり 抵抗しまくり  
客人が集まる部屋へ 強姦<sup>レイプ</sup>はいやと逃げ込んだ

10

##### III.

司祭は 獲物を取り戻そう  
初志貫徹 彼女を襲おうと追いかけた  
しかし客人たちが女をかばって立ちはだかり  
司祭を袋叩きにして 階下へ蹴り落とした  
司祭としての威厳は地に落ち  
強姦<sup>レイプ</sup>どころではなくなった

15

##### IV.

司祭はダブリンにやってくると 売春宿へ行き  
宿主<sup>あるじ</sup>に誰か女を連れてくるよう命じる  
自分のガウンを見せるのにためらいなどなかった  
というのもそれが習慣だったから  
司祭はブドウ酒で酔っ払い  
見事淋病<sup>クラップ</sup>に感染するも 強姦<sup>こと</sup>には至れず

20

##### V.

司祭と 仲の良い陽気な<sup>あるじ</sup>宿主は 25  
2週間快樂の海を泳ぐと決めた  
どういうわけか 二人とも  
一日中飲み明かし 夜通し女遊びに<sup>うつつ</sup>現を抜かず<sup>たち</sup>性質  
<sup>あるじ</sup>宿主はあらゆる悪遊びで司祭に付きあうが  
<sup>レイブ</sup>強姦だけはやめといた 30

VI.

この熱狂的新教徒 この神聖なるイングランドの司祭  
信仰と国家の問題に関しては穩健派  
ハノーバー王朝に対してはスティールよりも忠実だが  
内心トーリー派が台頭すべきと嘆いていた  
これほど忠実な者が首を吊られるべきなのか 35  
<sup>レイブ</sup>強姦以外は罪を犯していないのに

VII.

賢者が記したとおり 古きローマカトリックのカノンでは  
教会の法により聖職者には内縁の妻がいた  
聖職禄一時保有を持たずに誰がファルネの司祭になると言うのか  
もし許されるならわれらは前例を作れよう 40  
売春婦がそんなにも安いのに なにゆえ司祭が  
危険と苦勞を物ともせず わざわざ<sup>レイブ</sup>強姦なんぞするものか

VIII.

もしも運命が気まぐれに  
(スドレーの後継者に君を任命する)  
君に聖職衣 司教冠 白衣を授けたら 45  
君は誰に似るだろう? 当ててごらん  
私にはアサートン氏の姿に見えよう  
ちょうど君が<sup>レイブ</sup>強姦でそうなったように 男色で死刑になった男

IX.

君は立派なチャーターズ大佐をうらやましく思わぬか  
70歳で君と同じ罪をとがめられたのだ 50  
その首を吊るすためならイングランド中がガーターを差し出すだろう  
しかし彼は生きている 再び<sup>レイブ</sup>強姦を犯し  
君を1メートルの強い紐で絞め殺そうとしている  
君が<sup>レイブ</sup>強姦の罪を贖う1銭すら持たぬから

X.

くだんの司祭は進んで身を任せる売春婦など願ひ下げ 55

もがき叫ぶ女を探しだし  
司祭はびた一文払わずに 女をたっぷり堪能した  
だがこれでは後のたたりが待っている  
司祭の罪は積もり積もって山となり  
強姦罪レイプで絞首刑となるのだ 60

XI.

犯やられたのが素人女なら それは自ら求めたも同然  
どうしてわざわざ男に抵抗するのか  
もし女たちがただ静かに横になって 声を潜めるなら  
悪魔も司祭も強姦レイプなどしないだろうに  
頑丈な麻のロープを 65  
強姦罪レイプで司祭の首に巻きつける必要もなかりょうに

XII.

われらが教会 われらが国家をイングランドは大事に思って下さる  
そのことを真まことの新教徒は喜ぶべきだ  
イングランドはわれらに司教 判事 司祭を送ってよこそが  
もしより良い者がいるのなら もっと良い者を与えてくれよう 70  
だが 野次馬たちも目をむいて開いた口がふさがらなかりょう  
イングランドの司祭が強姦罪レイプで絞首刑になるなどとは

(三木菜緒美訳)